



子どもも大人も信頼できる人間関係の中で自分らしさを伸ばしていける～子どもの遊び場づくりが生み出す地域のつながり・「冒険遊び場たぬき山」代表の岡本恵子さんに聞く

町田市成瀬の「三ツ又冒険遊び場たぬき山」は子どもたちが自由に遊べる場所として、地域の人々の協働によって運営されています。代表をしている岡本恵子さんから「たぬき山」の活動を通じて地域の中に広がっている様々な人と人のつながりについてお聞きしました。

自然の中で子どもたちが思い切り遊べる場所をつくりたい

「子どもが自由に遊ぶ場所がない」という親の「ぼやき」がきっかけになって、平成9年から小学校や中学校で遊び場をつくる活動を始めました。その頃、中学生が数人で公園にいて「たむろしているから何とかしてほしい」という苦情がよく学校に寄せられていたようです。別に悪いことしているわけじゃないんですけどね。追い出されればコンビニに溜まることになるし、だったら学校にフリースペースを作りましょうということになった。それでも足りない、もっと自然の中で子どもたちが思い切り遊べる場所をつくりたい、と思っていた時に、全国のあちこちで子どもが自由に遊べる「プレイパーク」があることを知りました。成瀬でもつくろうということになって、「たぬき山」の地主さんに相談したら、「子どもたちの遊び場になるなら是非使ってください」と、水道やトイレまで取り付けてくださった。この地主さんの御理解と全面的な御協力なしには、「冒険遊び場たぬき山」は存在しません。

「自分の責任で自由に遊ぶ」が合言葉

「たぬき山」は、有償で若い人たちにプレリーダーを頼んで、水曜、土曜、第3日曜とその翌日の月曜に開いています。プレリーダーは遊び場の管理をしながら、子どもたちの自由な遊びをより豊かにするために遊び場のデザインをしたりしています。

「自分の責任で自由に遊ぶ」というのがモットーです。環境を整えたら、あとはあまり子どもの遊び方には干渉しない。子どもは自分たちで遊びを作り出す力を持っています。大人がよかれと思ってやっていることがかえって子どものエネルギーを奪ってしまうこともある。「たぬき山」では子どもがあちこちに「基地」を造っています。中には地下壕が掘ってあって、雨水を利用した水道まで引いてあるものがあります。「ここまでやるか」というくらい手の込んだものを子どもたちだけで作り上げます。大人がこうした方がいいとか言わなくても仲間と知恵を出し合いながら作ってしまう。子ども同士の「いさかい」や対立もあるし、けんかもしょっちゅう起こりますが、これが自然な子どもの姿だし、協力しあったり対立したりする関係の中で自立することや協同することの素晴らしさを学んでいくのではないかと思います。そうやって初めて自分のすることへの責任も感じとる事ができます。

子育ての「つまずき」が地域活動のきっかけに

子育てでつまずいたんですね。自分が育つ中で経験したことをそのまま子どもに押しつけようとして、子どもが自分の力で自信をつけたり、自己実現しようとする機会を奪ってしまっていたんです。親子関係がすごくギクシャクしてしまって、本当に苦しみました。そんな時に、町田市主催で体験ボランティアという行事を知って、子どもに勧めてみたんです。4日間のボランティア体験だったんですが、帰ってきた時に今まで私には見せたことがないような充実した顔つきで目を輝かせて体験したことを話してくれました。翌年も参加して、今度は体験を終えたその日にボランティアセンターに行って市内にある福祉作業所を紹介してもらいました。自分で話をつけてきたわけです。早速、福祉作業所に通いはじめました。話を聞くとその福祉作業所の職員さんが、慣れない自分に親切に教えてくれたり、時には忠告してくれたり、いろいろな悩みを聞いてくれると言うんです。次第に子どもが変わっていきました。ありのままの自分が認められている、という実感があつたんでしょう。その時に気づいたんです。私は子どものために思っていたけれど、結局それは私が敷いたレールを子どもに走らせることで自分が満足したかっただけだったんだと。大人が勝手に描く理念を押し付けて我慢させるのではなくて、今、目の前にいる子どもが何を幸せと感じているのか、どうしたらその子らしく生きられるのか、を考えることが、本当の子どもの幸せにつながるんだと思いました。

子どもをとらえてつくれる大人の関係が地域の力になる

地域に出て行くようになって、子どもの遊び場づくり等をしている多くの人たちに出会いました。自分の子どものことだけを考えるのではなくて他人の子どものこと考える。子どもとかかわっている時の大人の表情が本当に楽しんでるって感じで、建前でやっていない。みんなが輝いていて素敵でした。自分の悩みを話したら親身に聞いてくれて、自分の悩みも交えて助言してくれました。みんな同じような悩みを抱えているんですね。ホッと息をつける、自分を受け入れてくれる人たちがそばにいることを実感しました。

子どもも同じですよ。仲間との関係の中で、自分の力をためしたり、認められたりしながら、自分の価値に気づいていくことができる。人の心が傷つくのは結局、人間関係からで、傷が癒されるのもやっぱり人間関係なんだ、ということ子どもたちとの関係を通じてわかったような気がします。子どもを育てるのは親だけの力ではできないこと、それに気づいた時に親も肩の力を抜くことができた。またそれによって子どもものびのびと育つ機会が得られた。こうして、「遊び場」で生まれる子どもたちの力を大人たちが自信にして、信頼しながらつながっていくことが何にも代え難い地域の力になっていくのだらうと思います。



三ツ又冒険遊び場たぬき山(町田市成瀬・三ツ又)

平成11年8月に、地域の市民団体「子ども広場を考える会」の有志によって開園した手作りの遊び場。自然の中で「自分の責任で自由に遊ぼう」を合言葉に、地域のボランティアを中心にしたスタッフとプレリーダーによって運営されている。子どものやりたい気持ちと実践を第一にしなから、遊びと交流の拠点になっている。

<http://www.ne.jp/asahi/tanuki-yama/story/>

※最近各地に冒険遊び場ができています。

冒険遊び場についての問い合わせ先:NPO法人日本冒険遊び場作り協会 <http://ipa-japan.org/asobiba/>



「たぬき山」で遊ぶ子どもたち。子どもは自分たちで遊びを作り出す。